

一人の若い警官が撃たれた……
ニューヨーク市警も彼の死を望んでいた!!



AL PACINO
"SERPICO"
〈カラー作品〉

●愛する女も仲間も失い戦いつづける妥協を許さぬ青春像!

アル・パシーノの

セルピコ

●ゴールデングローブ賞に輝く アル・パシーノ ■監督シドニー・ルメット パラマウント映画・CIC配給



アル・パシーノの セルピコ

＜カラー作品＞

燃える男の正義と情熱が汚濁に満ちた
巨大な警察機構に挑戦する！



ALPACINO in
SERPICO

パラマウント映画・CIC配給

（二時間十分／テクニカラー／パラマウント映画／CIC配給／デイノ・デ・ラウレンティス・フィルム）

■物語

一九七一年二月、ニューヨーク市の警官フランク・セルピコ（アル・パシーノ）が重傷をおってグリーンポイント病院にかつぎこまれた。地区総監グリーン（ジョン・ランドルフ）はさつそく彼の病室に二十四時間の警戒態勢をしかせたが、同時に映画は、こんな事件が起った過程を、フラッシュバックで克明に描いてゆく。

十一年前、セルピコは希望にもえて警察学校を卒業した。だから八十二分署に配属されたとき、どちらかといえば知性派の彼も、誇りを胸とときめかせたものだった。しかし勤務後、警察官としての理想と現実のギャップは、彼の内部で見るまに広がっていった。潔癖なセルピコには、日常茶飯事としておこなわれていた同僚たちの取賄、さばり、見て見ぬふり、暴行などが耐えがたいものに感じられたのだ。

犯罪情報課勤務に変わってからは、彼は向上心の満足とイキぬきをか

ねてニューヨーク大学へ勉強しに行くようになり、そこで会ったレズリー（コーネリア・シャープ）というバレー・ダンサーとすつかり意気投合した。非番のときはジーンやサンダルを好んで着き、情報課でも変人あつかいされていた彼だが、知的でウィットにも富んでいたの、レズリーはもちろん、彼女に警官だと紹介された一瞬ぎくりとする彼女の友人たちの間でも、けっこう人気があった。

情報課では彼だけが浮き上った感じだし、上司ともうまく行かなかったの、セルピコは気むずかしく屋のくせに気の弱いマクレイン警部（ビフ・マクガイア）に転任を頼んだ。結局二十一分署のバトロール警官になることになったが、署長は町を歩くなら口ひげを剃れという。しかしセルピコはおとり捜査をするときの変装用に口ひげは必要だと抗弁、やつと剃らずにそのまますることができた。口ひげはなんとか助かったものの、彼はレズリーをうしなした。突然、テキサスの男と結婚すると彼女に宣言されたのだ。

配属された最初の日に、セルピコはワイロの分け前を渡された。プレアに相談し、調査部長に報告したが、部長はただ忘れてしまえと忠告するだけだった。マクレインや他の警察のお偉方は頼りにならず、結局セルピコ自身が、公聴会に出廷することになった。彼が尊敬するグリーン地区総監は励ましてくれなかったが、肝心の公聴会そのものは、地方検事が訊問で問題の核心を故意にさけて通つたため、いたずらに時間を空費したにとどまった。今やセルピコは地区じゅうから異端者あつかいである。第八分署に転任することになったのはロンバード警視だけだった。二人で調べてみると、このマンハッタン地区の取賄組織はブロンクス以上に巧妙にできていた。すぐ事実を上司に報告したが、二人はそこでも、再び厚い壁にぶつかった。

プレアやロンバードの応援で、ついに意を決したセルピコがすべてをニューヨーク・タイムズにぶちまけた。当然、ニューヨークじゅうが割れかえるような騒ぎになったのはいうまでもない。市長は特別調査委員会（ナットアップ委員会）を任命し、警察の腐敗ぶりが糾弾されることになった。しかし決着がつく前に、セルピコはデラニー総監によって、市でもっとも危険なブルックリンの麻薬地帯に転動を命じられた。そしてある日、数人の同僚とともに麻薬犯逮捕に出動した彼は、そこで重傷を負う破目になった。状況からみて、同僚が助けようとするは助けられたのに、である。

になったと聞かされても、セルピコの顔は晴れなかった。どうせお体裁にすぎない。流れに石が投げられて、いつとき水の輪が浮かんだにすぎないのだ。ではなぜ命がけであんなことをしたのかとグリーンにきかれて、セルピコは一瞬考え、静かに答えた——自分自身のためだったのだ。

今、セルピコは退職し傷い年金を受けスuisに住んでいる。しかし住所は誰にも知らせない。

▼スタッフ▲

制作……マーティン・ブレグマン
監督……シドニー・ルメット
原作……ピーター・マリス
音楽……ミクス・テオドラキス
デイノ・デ・ラウレンティス・フィルム

▼キャスト▲

フランク・セルピコ……アル・パシーノ
グリーン地区総監……ジョン・ランドルフ
キーオ……ジャック・キホー
ローリー……バーバラ・イーダ・ヤング
ブレア……トニー・ロバート

■解説

一九七〇年四月二十五日、ニューヨーク・タイムズの第一面は「ニューヨーク市警の汚職数百万ドルにおよぶ」の大見出しを掲げた。この映画は、ニューヨーク市警察に根強くはびこっていた腐敗、汚職にたった一人、幾多の誘惑をはねのけて敢然と挑戦した正義に燃える男、セルピコ、の真実の記録である。

警官という職務以前に、人間として男としてベストに生き抜く道は、これ以外にないと同僚の汚職を告発するに至ったセルピコの信念と情熱は観る者の心に強烈な印象を残してやまない。セルピコには「ゴッドファーザー」「スケアクロウ」で今やハリウッドのトップ・スターの座を確保したアル・パシーノ。本年度ゴールデングローブ賞の最優秀主演男優賞を受賞している監督は「十二人の怒れる男たち」「丘」などの巨匠シドニー・ルメット。セルピコの苦悩と強靱な精神力を、また警察機構と社会機構の矛盾をクールな描写で入念に描いている。原作は「バラキ」のピーター・マリス。

ニューヨークで七三年十二月に公開され、以来「ステイキング」と共に記録的な大ヒットを続けている。

次回ロードショー

日比谷映画 (591)
ヒビヤ 5353